

オンラインで発音学習

大塚朝美

2019 年 12 月に発生が確認された新型コロナウイルス感染症により、2020 年度は学校教育にとっても大きな変革を迫られる年となった。4 月からスタートした新学期では対面授業ができないという今までにない事態に、教員をはじめ教育に関わる多くの人たちが頭を悩ませた。大学生の発音指導や音声教育に関わる授業を担当していることから、オンライン授業における発音学習のプラス面、マイナス面について考える。

まず、プラス面では、マスクを着用せず大きな声で「発声」できるという点である。現在の対面授業ではどの授業も全員マスク着用が基本であり、発音のクラスでも勿論マスクをしたまま発音練習をしている。自宅からオンライン授業に参加した学生たちは、家の中ではマスクをせずに発音練習ができ、声を出すことについても教室内で発音するより他人の目を気にせず練習することができたという。次に、特に母音や子音の発音を 1 つ 1 つ確認する春学期では、口の形をカメラに近づいて示すことができ、学生にとっても自分の口の形をカメラを通して確認することができた点である。教室でもカメラを使用して教員の口の形を示すことはあるが、配信する PC 前では常にアップの顔が映し出されており、モデルを示すには都合がよく、学生自身の発音指導の際にも物理的に近づくことなく口の形を確認することができた。3 点目は、個別指導が容易であった点である。オンライン授業期間中は主に Zoom を使用していたが、Zoom のブレイクダウン機能を使うと参加者たちのグループを作成し、グループ分けをして話し合いなどができる。教員は各オンライングループの中に合流することができ、小さいグループ内で発音指導ができた。また、あえてグループ人数を「1 人」に設定することで教員が個別に学生と話すことができ、他の参加者たちに聞かれることなく一対一での発音指導も可能となる。

一方、マイナス面については、実際の発音チェックが難しいという点である。英語の子音（例えば、摩擦音）に必要な息使いが本当にできているのか、マイクを通して聞く音声からはなかなか判断しづらい。逆もしかりで、教員の発音のモデルが上手く伝わっていたかどうかは疑問である。また、クラス全員がリピートした音声聞こえないことから、どの程度発音しているのかが即座につかめず、こちらからのアドバイスや指導にも影響があった。最後に、大学の音声学の授業では発音記号を書くことも

求められるが、間違っただ記号の形などを指摘するのが難しい。小型のホワイトボードを準備してそれに書きながら間違いのパターンを示したが、個々で写真提出した課題に書かれた記号にはそれぞれアドバイスが必要であり、普段であれば紙ベースで書かせたクイズや課題を回収して手書きでコメントを書きこむが、それを言葉で説明しながらフィードバックすることが難しく、学生たちにも伝わりにくかったように思う。

以上のようなプラス面、マイナス面があったが、学生たちにとってはオンライン授業を通じて得た個別で学習する習慣や様々な学習管理システム（LMS=Learning Management System）を駆使して学習する体験を得られた。対面授業に切り替わった秋学期も、春学期に利用して良かった点はそのまま並行して使いながらこれまでとは違った形の授業展開を模索していきたい。

(大塚朝美 准教授／教員養成センター)
